



# 第97回宮様スキー大会国際競技会 バイアスロン競技 / クロスカントリースキー競技

令和8年2月28日（土）から3月1日（日）の間、北海道札幌市白旗山競技場及び西岡バイアスロン競技場において「第97回宮様スキー大会国際競技会」が実施され、本校からはバイアスロン競技に立崎幹人（たちぎみひと）1等陸尉以下8名、クロスカントリースキー競技に田中聖土（たなかまさと）2等陸曹以下4名が出場し、それぞれの競技・種目で優勝の成果を挙げた。



(1走) 3等陸曹  
長岡溪汰

(2走) 2等陸曹  
郷翔一郎

(3走) 2等陸曹  
大田喜日向

(4走) 陸士長  
西本ひのき

リレー種目  
**優勝**

## バイアスロン

バイアスロン競技では、初日のリレー種目（男子7.5km×4名）に大田喜日向（おおたきひゆうが）2等陸曹、郷翔一郎（ごうしょういちろう）2等陸曹、長岡溪汰（ながおかけいた）3等陸曹及び集合訓練生の西本ひのき（にしもとひのき）陸士長（第10即応機動連隊）の4名が出場した。体育学校OBで五輪出場経験者を含む選手を1走から3走に揃えた第5普通科連隊（青森）がスタートからトップを独走し、逃げ切る形に持ち込んだが、1走の長岡3曹及び2走の郷2曹がオリンピックに必死に食らいつき3走の大田喜2曹へとバトンを繋いだ。クロスカントリースキーで全日本優勝経験のある大田喜2曹はバイアスロンに転向して1年目。持ち前の走力で約1分30秒あったトップとの差を約20秒まで縮めた。最終4走の西本土長はその差を1回目の射撃（伏撃）終了時に逆転し、約20秒の差を付けた。2回目の射撃で西本土長は1発のペナルティを課せられ、ペナルティコース滑走終了時には第5普通科連隊がぴったりと西本土長の背中につく形となりラスト1周の走力勝負となったが、力強い滑りでその差を10秒以上広げてゴールし優勝を決めた。レース後、4選手は「自分達ができる最大限のことはできた。最後は逆転して優勝できて良かった。」とそれぞれの長所を活かしたチームとしての勝利に笑顔で語った。

続く2日目はインディビジュアル種目（個人競技）男子20kmに6名が出場し、立崎1尉が優勝、長岡3曹が2位、郷2曹が3位の成果を取めた。男子優勝の立崎1尉は、4回の射撃（各5発）でペナルティを3とした。本種目はペナルティ1につき1分がゴールタイムに加算されるが、合計タイムで唯一50分を切り優勝を決めた。立崎1尉はレース後「勝ちにこだわることより周りの人たちに対して感謝の気持ちを持って、自分ができる最高のパフォーマンスを出すことを意識してレースに臨んだ。難しい天候になることは想定内だったので、自分の技術を信じて気持ちで負けることはなかった。日本選手権でも感謝の気持ちを持ち、皆さんを笑顔にさせるようなパフォーマンスを出せるように頑張りたい。」と大会を振り返った。



1等陸尉  
立崎幹人

男子20km  
インディビジュアル種目  
**優勝**



女子15km  
インディビジュアル種目  
**優勝**

3等陸曹  
福田光

インディビジュアル種目（個人競技）女子15kmに3名が出場し、福田光（ふくだひかる）3等陸曹が優勝、竹内美琴（たけうちみこと）3等陸曹が2位、佐々木美紗（ささきみさ）2等陸曹が3位の成果を取め、男女ともに表彰台を独占した。女子優勝の福田3曹は、4回の射撃で参加者の中では最も少ないペナルティ5とし、スキーにおいても安定した滑りで2位の竹内3曹に約10秒の差をつけて優勝した。福田3曹はレース後「ベストではないコンディションの中で、走力より射撃に集中してレースに臨んだ。その射撃では強く吹く風への対応が難しく、目標とするペナルティ数には届かなかったが、自分のリズムを大切に悪い状況の中でも良い射撃ができた。続く日本選手権では射撃の命中率を更に上げ、力強い滑りを見せたい。」と語った。

# クロスカントリースキー

山下陽暉（やましたはるき）2等陸曹は2日目のクラシカル種目（男子10 km）において、前日のフリー種目優勝の宇田崇二選手（(株)福井村田製作所）を抑えて優勝の成果を取めた。クラシカル種目は80番目でスタート。先にスタートした宇田選手が2.5 km ごとのラップで好タイムを出すと、後ろを走る山下2曹がさらに速いタイムを出しラップタイムを塗り替えた。その差は2.5 km ごとに6秒、19秒、32秒と開いていった。良きライバルである宇田選手もラストスパートをかけタイムを上げたが山下2曹が約22秒の差を付けて優勝を決めた。ゴール後、2日間に渡り熱戦を繰り広げた2人はお互いの健闘を讃えあった。山下2曹はレース後「優勝できて嬉しい気持ちでいっぱい。支えてくれた人達に感謝したい。今日の雪は自分の好きな雪だったので絶対に優勝すると決めてレースに臨んだ結果優勝できて良かった。天皇杯ではミラノ五輪に出場した選手も出場するので、その中で優勝を決めて4年後に繋げたい。」と語り、次の天皇杯そして次期冬季五輪に向けた意欲を見せた。



クロスカントリースキー  
男子10 kmクラシカル種目

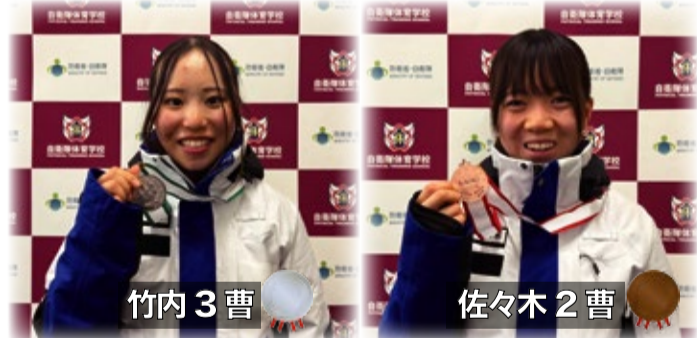
優勝

# サポートスタッフ



レース直前までスキー板の調整をするスタッフ

選手が全力で競技に集中するためにはスタッフのサポートが必須である。朝早くから選手の板をメンテナンスするスタッフは、当日の気温、雪温だけでなく、選手とコミュニケーションを取り、選手一人一人の要望やコンディションなどを考慮しワックスを塗り選手をスタートへと送り出す。選手とスタッフとの信頼関係がなければ成立しない冬季種目。スタッフは元選手だからこそ選手に寄り添ったサポートができる。優勝した山下2曹がレース後、スタッフにお礼を言って握手をするシーンは、個人の努力だけではなく、チームとして勝ち取った優勝を印象付けるシーンだった。



自衛隊体育学校後援会・学校校友会・江頭学校長・朝霞及び真駒内職員

今回、自衛隊体育学校後援会、学校校友会から計9名及び江頭学校長以下、朝霞及び真駒内職員が熱い声援を送った。

選手達の戦いは、いよいよ今季最後のレースである第62回バイアスロン日本選手権大会及び天皇杯第104回全日本スキー選手権大会へと続く。



選手に熱い視線を送る体育学校応援団



冬季特別体育教育室の選手を激励する学校長

